

「教え方が分からない」現場の悩みを解決!

サイバー防犯教育

実践の教科書

捜査研究臨時増刊号
(令和8年7月発行)

◆A5判 ◆232頁 ◆定価2,860円(本体2,600円+税10%)

ISBN978-4-8090-1512-0 C3037 ¥2600E

※本書は、『捜査研究』定期購読者以外の方もお求めいただけます。

目次など
詳細は
こちら!



本書の特色 年間約50回、約7,000名への指導実績に基づくノウハウを凝縮!

- ◆「何を教えるか」「どう教えるか」の両方をこの一冊で学べる! 対象者のレベルや講義形態(講堂、教室、オンライン)に合わせて指導するためのポイントも解説。
- ◆SNSトラブル、個人情報と発信のリスク、スマホ依存、グルーミング、闇バイト、フィッシング詐欺、偽・誤情報、生成AIとの付き合い方、著作権など、スマホ防犯に必須のテーマを網羅。
- ◆授業スライドや進行台本、関係者との打合せに使えるフォーマットなど、アレンジしてすぐ使えるダウンロード資料を多数登載!



内容見本

スライドと台本の見本で、
授業の組立てができる!

2.3 ステップ②:事前打合せ:学校のニーズをつかむ

2.3.1 なぜ事前打合せが必要なのか

「事前打合せって、本当に必要ですか?メールで確認すれば十分では?」

こう考えるのは自然なことだ。しかし実際には、事前打合せの授業の質を大きく左右する。理由は三つある。

第一に、学校の「本当のニーズ」は対話の中から見えてくる。

メールで「どのようなテーマを希望しますか?」と聞くと、「トラブルについてお願いします」という返答が来ることが多い。これだけでは授業を設計するには情報が足りない。打合せの場で貴校ではどのようなトラブルや課題がありますか?と尋ねると、先月、LINEグループでいじめがありまして…「保護者から生存の相談が増えていて…」といった具体的な文脈が見えてくる。脈を踏まえて初めて、その学校に本当に必要な授業を設計できる。

第二に、学校側の不安を和らげ、信頼関係を築ける。

学校の先生方は、「外部から来る人たちに任せて大丈夫だろうか」という不安を少なからず抱えている。打合せの場で真摯に耳を傾ければ、こういふ内容はいかがでしょうか?と具体的に提案すれば、「この人たちに任せられる」という安心感につながる。この関係が、当日の円滑な運営を支える土台になる。

第三に、確認項目の漏れや解釈のずれを、その場で防げる。

メールでのやり取りは記録が残る利点がある。しかし、一問一取りでは確認項目に漏れが出やすく、互いの解釈が微妙にずれ込んでしまうことがある。打合せであれば、その場で「こういふ合っていますか?」と確認し合える。合意した内容を議事録に共有すれば、認識のずれは更に起きにくくなる。

3.1 授業形態の選び方

サイバー防犯教室の授業形態は、大きく三つに分かれる。

体育館や講堂で一学年を丸ごと相手にする大講義型、教室で3人と向き合うクラス別型、オンライン会議ツールで遠隔地に届けるイン型だ。

どの形態にも固有の強みと弱みがあり、唯一の正解は存在しない。学校の状況、生徒数、対応可能な講師の人数、学校の所在地等を総合判断して、学校側の要望とすり合わせをしながら選択することになる。

サイバー防犯教育授業の三つの実施形態



大講義型

体育館やホール等で、一学年全体に対して一斉にレクチャーし、視覚的なスライドを用いて、クイズや動画も取り入れ、分かりやすく丁寧に事例の解説をします。一度に少ない人数のメンバーで大人教に教えられるため、主には学校での実施に向いています。



クラス個別型

各教室にそれぞれ担当講師がお伺いし、クラスごとに個別に授業を行います。その分、生徒さん達と「近い距離」で授業を行うことができます。グループワークの時間には、各グループに講師が入って講義するなど、より密で双方向なコミュニケーションがある授業を行います。



オンライン型

遠方の学校等については、オンライン会議ツールを活用し、ごいただいた全国各地の中小高校にオンラインでライブ授業を行います。オンライン授業であっても、対面授業と変わらない質の授業提供が、グループワークなどを含むインタラクティブな授業を行います。

大講義型は、体育館や講堂で100~500名規模の生徒を一度に授業を行います。

短時間で多数に届けられる効率性が最大の強みだが、後方席の生徒に注意が行き届きにくく、双方向性の確保が課題になる。全校集会や学年

「教え方が分からない」
を解消!

スライド・
台本見本は
こちら!



東京法令出版

学校安全 ポケット必携

申
込
書